

都の闇はそばにいる  
口を開けても  
何も君の前を  
照らさないのなら

文明が生み出したもの  
高尚な快樂と  
指一本の仕事率  
そして作り物の夜明け

# あおいろ詩繡

し しゅう

『生きている蒼い宝石の中で』

白い砂浜に残る小さな足跡 潮風に抱かれる心  
きらきらと続くさざ波の音は 蒼い夢の中に溶  
けては消えてゆく  
瞳に覗いてくる 蒼いきらきらな蒼は 呼吸している  
宝石達

太陽に抱かれて キセキは蒼色に輝き 生きる宝  
石となつて この星を廻していく  
もしかして他に この星が蒼い理由は  
僕達の想像や願望を光に照らしたら 蒼かつた  
からかもしれない

涙の味が広がる蒼い夢  
貝がらに隠れてい夢の粒  
メッセージを残した砂浜の手紙は さざ波で届け  
る一つの気持ち

手にすくつて溜めた きらきらな蒼は 生命輝く  
宝石達

太陽に抱かれて キセキは蒼色に煌めき

命あふれる宝石となつて この星を廻していく  
僕達が歩むこの星の足跡は 生きている蒼い宝

石とともに息をしている  
一日 一日 生きているんだ

この星の七十の隙間に  
太陽の不思議な歌が広がり  
キセキは 蒼い夢に産まれてきて  
この星を廻している  
僕達も生きている

太陽に抱かれて キセキは蒼色に輝き 生きる宝  
石となつて この星を廻していく  
僕達も生きている

太陽の我がままで キセキは蒼色に輝き 生きる

伊藤 洋佑

経済学部

経済学科 3年

宝石となつて この星を廻していく  
蒼い夢とともに この星が廻り  
一緒に乗せながら  
ともに生きていくんだ

僕達の足跡も

